保健師・助産師による新生児訪問指導事業の評価

育児不安軽減の観点から

佐藤（サトウ）　厚子（アツコ）*　北宮（キタミヤ）　千秋（チアキ）[2*]　李（リ）　相潤（サンゲン）[3*]　面澤（メンザワ）　和子（カズコ）[4*]

目的　本研究は母親の育児不安の実態を把握し，新生児訪問指導事業（以下，訪問指導）の評価を育児不安軽減の観点から行い，今後の課題を得ることを目的とした。

方法　対象者はH市保健センターの4か月健康診査に来所した母親であり，児の出生時体重が2,500 g以上のものとした。研究期間は平成15年1月から3月までの3か月間であり，自記式質問紙による調査を行った。

結果　訪問指導に対する対象者の評価は高く，育児不安軽減につながっている重要な事業である可能性が示唆された。多くの対象者が訪問指導を受けたことで育児方法が分かり，指導者と話をして気持ちがすっきりした，育児について心配になったとき相談できる場所があることが分かったと答えた。育児不安があると答えた対象者は全対象者の78.1%，訪問指導を受けた対象者は54.4%であり，育児不安がある対象者の方が多く指導を受けていた。育児不安内容は体重が増加しているか，ミルクの量は適切かで訪問群・非訪問群に有意差があった。育児の手伝いは大多数が夫であった。夫の手伝いがあっても育児不安がある対象者が有意に多かった。育児書や雑誌から情報を得ているとした対象者は育児不安がある傾向があった。訪問指導や医療機関から情報を得ているとした対象者は少なかった。訪問指導を受けなかった理由はH市からの連絡がなかったと答えた対象者が多かった。

結論　H市における訪問指導は対象者のニードに適合しており，その目的をほぼ達していると考えられる。対象者の事業評価は高く，育児不安軽減に効果的である可能性を示唆した。今後の課題として事業アピール方法の改善が望まれる。

Key words：新生児・訪問指導・育児・不安・保健政策

* 秋田看護福祉大学看護学科
[2*] 弘前大学医学部保健学科
[3*] 青森県立保健大学理学療法学科
[4*] 弘前大学教育学部
連絡先：〒017-0046 秋田県大館市清水2-3-4
秋田看護福祉大学看護学科　佐藤厚子